
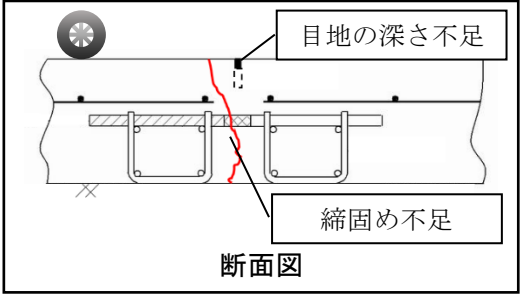
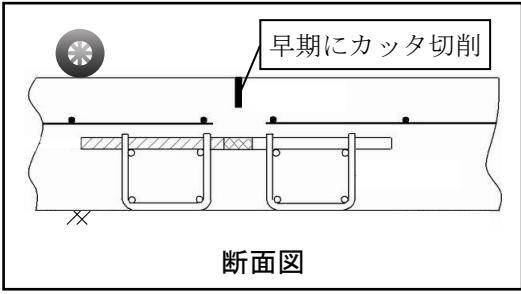


発生箇所	②横目地
分類	材料・施工
参考箇所	4-8-6 目地の施工
<p>●内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施工後早期に、横収縮目地から数 cm 離れた箇所に、目地に沿って幅 1~5mm 程度のひび割れが発生した。 	
<p>●原因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート硬化時の温度応力や乾燥収縮によってコンクリートのひび割れが発生する時期より、カッタ切削が遅かった。 ・目地の溝の深さが不足していた。 ・バーアセンブリ周辺のコンクリートの締固めが不足していた。 	
<p>●発生防止策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・コンクリート版に有害な角欠けが生じない範囲で、できるだけ早期にカッタ切削を行う。カッタブレード1枚で早期にカットすることも有効である。 ・寒暖の気温差が大きいときは、施工直後の収縮量が多いことに留意して保温対策等を講じる。 ・施工中は、バーアセンブリ付近は人力により丁寧に締固めを行うなど、バーアセンブリが移動しないように注意する。 	
<p>●発生した場合の対応策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・カッタ切削点とひび割れ点が離れているので、樹脂モルタルやポリマーセメントモルタルなどによる部分的なパッチングを行い、設計位置に目地を戻す。 	